

小さな親切さん 2題

誰もが親切な対応は当たり前と考えている職業があります。警察官は市民のために、タクシー運転手は利用客のために親切な対応をすることは当たり前で、少しの対応のまずさが大きなクレームにつながることも多い職業です。

ここで紹介する親切さんは、仕事を通じて心から感謝されました。職場で行われた「小さな親切」実行章の贈呈式では、「今までいただいた賞の中で一番嬉しい」「お客様を目的地にお送りしただけなのに、感謝感激です」と笑顔が溢れました。

遠慮せずに110番通報してください

タクシー運転手の尾上将吾さんが、東京から埼玉県幸手市まで乗客を送り届けたのは、小雨が降る深夜23時半。帰路にカーナビが示した道は、なんと田んぼ脇の細いあぜ道で、右後輪を脱輪してしまいました。

何度も脱出を試みたものの身動きがとれず110番通報したところ、駆け付けてくれたのが幸手警察署の原口井佐夫警部補(56)と大塚淳一巡査(30)。街灯もない真つ暗な田んぼの中、朝までタクシー会社の整備担当者待つことになった尾上さんの心細い思いを気遣い、原口さんと大塚さんは携行ライトを貸与し、「困ったことがあったら、110番通報してくださいね」と励ましてくれました。翌日には、夜勤明けにもかかわらず車の引き上げにも立ち会ってくれました。



大塚淳一巡査(左)と原口井佐夫警部補(右)

ところが、尾上さんはお二人の警察官の名前が分かりません。運動本部は尾上さんの感謝を伝えるお手伝いをしようと、警察関係の仕事もさいている埼玉県川口支部の原島潔代表に相談。すぐに原口さんと大塚さん

私が必ず間に合わせます

就職の最終面接に向かっていた女子大生のSさんは、なんと下丸子(東京都大田区)に向かうべきところを新丸子(川崎市中原区)と勘違いしてしまいました。面接の時間が迫る中、藁にもすがる思いで新丸子の駅からタクシーに乗車。

最終面接の緊張や面接に間に合わない焦りでパニックになっていたSさんに、運転手の野崎雅一さん(56・明生タクシー)は、「大丈夫です。私が必ず間に合わせます」と力強く声をかけ、目的地をめざし速度を速めました。車中では、ハンドルを握りながら一生懸命励まし続けました。

おかげで無事面接を終えたSさん。後日、面接通過の通知を手にし、野崎さんのタクシーに乗らなければ、この結果はなかったと感謝の礼状を送りました。

んと判明させることができました。「小さな親切」実行章の贈呈式には、お祝いに「小さな親切」運動埼玉本部の加藤利雄県本部長も参列。同僚が見守る中、三好幸彦署長よりお二人に贈呈いただきました。



野崎雅一さん

礼状には、「たとえ、最終面接で落ちても、こうやって面接に行けるだけでも幸運だったし、何よりも野崎様のような優しい方に会えただけでも今日はラッキーだったと、心から清々しい気持ちになりました」と綴られていました。

これを読んだ同社常務取締役の村岡孝夫さんは、「業務の一環ではあるが、お客様の希望の会社にチャレンジする機会を失わずに済んだことと励ましは、『小さな親切』実行章に値する」と実行章の推薦を運動本部に。「小さな親切」実行章は、同社(川崎市幸区)近くで生まれ育った鈴木恒夫運動本部代表から、贈呈されました。